"もうすぐ学校"

これだけは知ってほしい入学前の心得

小学校入学も、まぢかに迫りました。お子さまにとりましては、誕生について、第二の出発でもあります。ご両親の心からの祝福のうちに、この上ない喜びをもって、新しい第一歩をふみ出される日をお待ちのことと思います。

新しい学校生活は、また新しい社会生活のはじまる時でもあります。それだけに、入学期のお子さまの、心と体の準備は、ご家庭でも慎重に考えられ、十分に研究される必要があると思います。その要点をまとめてみましたので、これを活用されて、晴れの入学式にのぞまれるよう希望いたします。

入学準備の第一歩は健康診断

入学する準備の第一歩は健康診断、種痘、予防接種とお子さまのからだの準備からです。健康なからだで、入学できるよう、よくお医者さんと相談し、その指示を守るようにしましょう。

しつけはおしつけでなく

親はお子さまのもつともよき家庭教師といわれています。そのつとめの中で、いちばんたいせつで、またいちばんむずかしいのはしつけでしょう。

しつけの第一歩は「はい」の返事から始まります。人から話しかけられたり、たずねられたりした時、まず「はい」といつてから、ことばを続けるようにしむけるべきです。自分のことは自分でさせたいものです。時間はかかつても、自分の着物の脱ぎかたは、自分でさせるようにしましょう。

ひとりで用たしのできない子、学校の便所では用のたせない子、入学当時は、いろいろなお子さまがおります。用たし後の始末、手洗いなど、親のちよつとした注意で習慣づけることができるものです。

みんなとなかよくするために

文字が読める、書ける、数がかぞえられるということよりたいせつなこと、それは、学校という新しい環境にとけこめる力、性質をお子さまに持たせることです。

○だれとでも遊べるように、学校はいろいろな家庭の子の集団生活をする場です。

だれとでも、わけへだてなく遊び交わつていかれるよう、今から心がけておきましよう。

○自分のものと他人のものの区別

自分のものと他人のものの区別や、かりたものは必ずかえす、といつたしつけをしましよう。

○幼児語をなおしておく

入学当初、お子さんが、幼児語をみんなの前でしやべつた場合、まわりのお子さん達から笑われたり、けいべつされたりする危険があり、それがお子さまの今後に大きく影響することも考えられるので、幼児語は、入学前にぜひなおしておきましよう。

身体検査を受ける入学児童

左ききをなおすのならば今のうちに

左きき、左右ききのお子さまの場合は、それが軽いようでしたら、右ききになおしておくとよいでしょう。

おべんきようはこれだけでよい

自分の名まえを読み書けるように、学校生活で最低限度必要な知識は、自分の名まえの字が読めることと書けることです。学校での持ち物などはほかのお子さまとよくにたものが多く区別するには、名まえの字ということになります

父母の名をいえるように

自分の名まえの次には、父母の名をおぼえさせておきましょう。

数は一〇まででよい

一〇までの数をかぞえる機会は、毎日のくらしの中でいくらでもあるものです。そうした機会を使つて練習させましよう。たしざんは教える必要はありません。

学校への安全な道をきめておく

家から学校までの安全な道をお子さまにおしえておくとよいでしよう。

交通のきまりを教えよう

お子さまに交通のきまりをおぼえさせることも、大切なしつけの一つです。

○親がする入学準備

学用品、もちものをそろえ、届け書類などがあつたら記入し、手ぬかりのないよう、最後の準備をしましょう。

学用品は、学校の指示どおりにそろえましょう。ランドセル、上靴入れ、かさ、レインコート、靴、洋服などには、全部名まえをつけておきましょう。学用品を自分で整理し、かたづける習慣をつけるためにも、整理箱、かばんかけ、本だななど必要なものはそろえておきましょう。

小学校への入学は、お子さまにとって、この上もない喜びですが、急激な生活の変化から不安もつきまといます。

この不安を除き、学校をたのしいものにするために、家族そろつて以上の点について心がけましよう。

印鑑の登録と証明

代理人には親子でも委任状を…悪用を防ぎましよう

最近役場で交付する印鑑証明の仕事も大変多くなりました。皆様のうちには、一度や二度は印鑑証明の用事で役場にお出でになり、混雑を経験された方もあると思います。

これは不動産の登記や、融資の保証、契約など、皆様の大切な財産の取引の上で、市町村長の印鑑証明が、必要とされているためです。このように重要な役割を果す印鑑証明でありますので、一たび悪用されますと、財産を失い、信用をも失うという一大悲劇も発生することになります。

昔から「ハンコと首は引き換え」といわれる程ですので、皆様も自分自身の印鑑の取扱いに当つては慎重過ぎる程慎重に扱つて頂きたいと思います。

経済生活が高度化するに従って、印鑑証明の事務も全国的に激増しており、これに伴って印鑑の不正使用、印鑑にまつわる犯罪なども多く発生しておるようであります。いきおい、役場の方でも印鑑の登録、証明事務等を、慎重にやらざるを得ないわけであります。

現在役場では、印鑑条例に基づいて印鑑証明等の事務を処理しているわけですが、「顔見知りの間柄なのに不親切なことを言うな」とか少しは融通をきかせろ」とか云って窓口で頑張っている方もときどきお見受けします。しかし、係の方では、事故の発生を未然に防ぎ、皆様の大切な財産をお守りする為に忠実に事務をとつているわけですので、その点御理解を頂きたいと思います。

なお、係では事務処理に当って、次の点について、特に皆様方の一層の御協力をお願いしております。

一、印鑑の登録、又は証明の交付は、当町に住民登録してある人でなければできません。

二、印鑑のご用は必ず本人がお出で下さい。

三、どうしても本人が、お出でになれないときは、使いの方に委任状を持たせて下さい。委任状の用紙はどんなものでもかまいませんが直接本人から委任することが必要です。なお、委任状には五円の収入印紙を貼り消印することになつています。

たとえ、夫婦、親子、兄弟の間柄でも、委任状は必ず持たせて下さい。

四、印鑑の登録と改印を代理人でするときは、印鑑を登録してある人と、連署して届け出なければなりません。

五、不明の点、お気付の点は係へお尋ね下さい。

国民年金制度への疑問に答える

国民年金保険にもベースアップはある

「戦前にかけた長期保険や公債等が戦後全く価値がなくなりました。国民年金も四十年掛けた者で、月額三五〇〇円支給されることになつていますが、何十年もたった後の三、五〇〇円では、子供の墓子代にもならないと思うが、どうなのか？」

良く聞かれる問題ですが、国民年金制度では、国民経済の発展又は変動に応じて年金額も、引き上げることが法律で規定されております。これは他の制度には見られない、進んだ仕組みになつております。

"社会保障としての年金は、その時々の生活水準に見合つたものでなければならない"からです。それでは時代の推移によつてどんな風に変つて来るかと申しますと、四〇年保険料を納めた人に対して支給される額については、十年後には七、〇〇〇円位の額に改訂されることになると思います。

積立てられた保険料は横芝町でも利用される

「国民年金の積立金は、どんな風に使用されているのだろうか。それを使つて老令福祉年金や、母子福祉年金を払っているのではないか？」

これもラジオや新聞でも、いろいろ論議された問題ですが積立金は個々の被保険者から拠出された保険料の集積ですから、将来年金として被保険者に支給されるまでは、大切に保管し、支給を始めるまでの間も、被保険者の利益になるように運用されなければなりません。その運用の如何は国民年金事業の将来に、決定的な役割を果すものとなることは当然なことで、国会や其の他の審議会でもこの点を強く主張している理由でもあると思います。

今回積立金のうちから、国民年金積立金特別還元融資として、市町村で経営する病院、養老施設、母子健康センター、保育所、温泉休養施設、其の他の増改築の資金が貸付けられ、被保険者の福祉増進にあてられることになりました。当町にも、農山漁村を対象とする住宅改良資金の貸付が、割当てられています。

なお、被保険者から拠出された保険料については、その五割に当る額が、国から追加されて積み立てられ保管されることになつており、巷間噂される、この積立金から各種福祉年金が支払われるなどということは、ナンセンスに過ぎません。

年金漫歩

「年金係さん、電話ですよ……。何だか大分声が大きいよ」

収納率九五%を目標に追い込みをかけていた国民年金係のKさんが、受取つた受話機から思いがけない喚声が飛びだした。

「おい！、国民年金係か……お前等どんな仕事をやつているんだ……俺の家ではちやんと保険料は納めてあるぞ……それを何んで催促なんか寄来すんだ……」

つい一週間程前に、二期以上納付が遅れている家庭宛に「収納日おしらせ」の通知を発送したばかり、万全を期して発送した通知であるが少々気になりだしたKさんである

「はあ、とうも失礼ですがどちら様でしようか」

「大鯉部落の君鹿だよ」

「大鯉の君鹿さんとおっ！いますと……お名前は？」

「お前Kだろ、何年役場やってるんだ。大鯉の俺を分らねえのか……」

不幸にして大鯉部落には、君鹿と言う姓が六、七軒、しかも「収納日おしらせ」を発送した家が三軒ある。御当人は承知かもしれないが、こちらは一寸間ごつく。

「いや申訳ありませんが、電話が非常に遠いもんで、声がとなたか分りかねますので……それに手帳のお名前が分りませんと、一寸調べるのに困りますので」

「手帳の名前は君鹿幸雄と君鹿初子だ。見ろ、ちやんと十二月まで印紙は貼ってあるんだ」

「見ろ」と言われても、一山越えた部落までは目はとどきそうもない。

"少々お待ち下さい"

"念には念を入れろ"と台帳を調べていたKさんは、ふとある事に気がついた。

「もしもし、お待たせいたしました。失礼ですが手帳を今一度見ていただきたいのですが……そして印紙を捺してある日付をおしらせ願いたいんですが」

「日付？、そんなものはねえよ、だけどちやんと貼ってあるんだ」

稍々ほつとした態のKさんである。

「検認印……いや郵便局のスタンプの様なものが捺してありませんか？」

「ああないよ、だけどなあ、収入役室で買って来た印紙をちやんと貼ってあるんだ」

「いや分りました……実はそれでは納めたことには、ならないんですが」

「金を払った印紙が、どうして役に立たないんだ」

「印紙が無効ではないんです。収入役室から買った印紙を貼つていただいた手帳を、私達係にお出し願つて、検認印と言ってですね、まあ一種の記録印を捺さないと、保険料を納めたことにならないんです……」

「面倒臭い事をやるんだな！ぢやその中に、検認とかいうやつを捺してもらいに行くよ……もつと簡単にするように厚生大臣に言っておけ！」ガチャン

厚生大臣は愚か、年金局長にも直接進言する機会も珍らしいK君は、只々仰せを畏み聞き及びながら、植木等のスーダラ節の一節……

―とかくサラリーマンは気楽なものだと言うけれど―

が全くナンセンスであることを恨めしく思った。そして年金手帳の印紙に検認印を捺し、県へ報告する為の検認票を書き、台帳に記録して更に手帳の記録印を捺す。そして被保険者にお返しする。一つの印が一〇〇円或は一五〇円、大事な仕事だ。しかもこの記録印を捺した時が、保険料の納付を認めたことになる。この複雑な仕事を頭の中で復誦しながら、電話と一諸に相手の顔が出て来るテレビ電話の幻想にふけつたのである。これは某県某村の話である。

"電話を下さる場合、固有の職名なり、お名前なり、特に世帯主のお名前をお聞かせ願えれば幸でございます。又年金印紙を貼ったら必ず年金係に検認印を捺させて下さい"

これは当町国民年金係からのお願いである。

編輯後記

暑さ寒さも彼岸まで猛威をふるった流感も、春の訪れと共に退散し、まずはひと安心といった処です。

眠っていた万物も、いよいよ活動を再開し、人もそれにつれて忙しくなりそうです。

昨年十一月に本紙が発刊されてから、この三号で本年度も終ることになります。編集技術はあまり上等とはいえませんが、皆さまの御愛読を深謝いたします。来年度もあいかわらず御声援を。